みんなの作品展

ポプラ保育園［げんきいっぱいあそぼうかい］

にて、絵本を題材に運動遊びをしました。

2歳児（10ぴきのかえる）

大きな船に乗って
カエルが出発！
10ぴきのカエルの
冒険です。

3歳児（はらぺこあおむし）

自分で選んだ絵の具で色付けをした
小さな布を貼り付けました。
はらぺこあおむしが大きな蝶々になりました♪

4歳児（ルイのうちゅうりょこう）

廃材を使い友だちと協力しながら
作った宇宙船。
みんなで宇宙旅行へ出発します！

5歳児（ゴナンとかいぶつ）

怪物とたたかう為、
槍を手作りした５歳児です。
ハサミを使い、布を切り貼りし自分だけの
アイテムで気合を入れます！

★ワタル君のまちがいさがしはお休みです★

保険　自動車・火災　ガン・医療・生命保険　のことは
東京海上日動・東京海上日動あんしん生命保険代理店
（株）ディ・エフ・ピー提携代理店
TEL. 072-771-7277
FAX. 072-771-7278
（株）ティ・エフピー提携代理店は
社会福祉法人つむぎ福祉会の運動
を応援しています！
お気軽にご相談下さい!!

つむぎ福祉会ホームページ
http://www.tsumugigroup.net

◇◆ちいさな家から◆◇

二ュース発行した頃、20歳だった仲間たち。あれから15年経って彼らも35歳。作業所で活躍したり自分らしく楽しく過ごされている事と思います。先日そらまめ作業所に研修に行った時、新成人コメントを書いて下さった一人の方が朝礼時間になるとサッと前に出て、予定などを発表され、作業では手際よくパーツを配ったり、仲間にアドバイスをする頼もしい姿を見せていました。つむぎ福祉会もこの15年で事業も増え、新たな課題にも立ち向かってきたと思います。今後も仲間や周りの方々と共に更なる進化・成長をしてゆく事と思います。そしてそこにはいつもつむぎニュースが存在している未来を楽しみにしています。

100号・乾杯！

（生活介護カカラ　竹中　京子）

2023年10･11･12月 №100 編集・発行 社会福祉法人つむぎ福祉会　編集者 中谷路子　発行者 石井 守
〒546-0031 大阪市東住吉区田辺6-4-1 TEL.06-6625-8253 FAX.06-6625-8257

社会福祉法人つむぎ福祉会
つむぎ福祉会のロゴは綿を紡ぐさまを
イメージすると同時に笑顔を表しています。

つむぐ

No. 100
2023
10･11･12

未来へ、これからも つむいでいく ▷Number 100

表紙 祝 100号記念

▲今までに発行したニュース表紙で100を表しました

P2　主張 『不適切保育』をなくすためには…？
P3　100号記念・ニュースの裏側
P4･5　特集 ―2類から5類へ― 第2弾 アフターコロナのいま
P6　リレートーク［そらまめ作業所］
P7　ふんわりやさしいオープンダイアローグ №5
P8　みんなの作品展［ポプラ保育園］・編集後記
別紙 100号記念 つむぐニュースの歴史

『不適切保育』をなくすためには…？

千代崎ポプラ保育園　園長　松枝順司

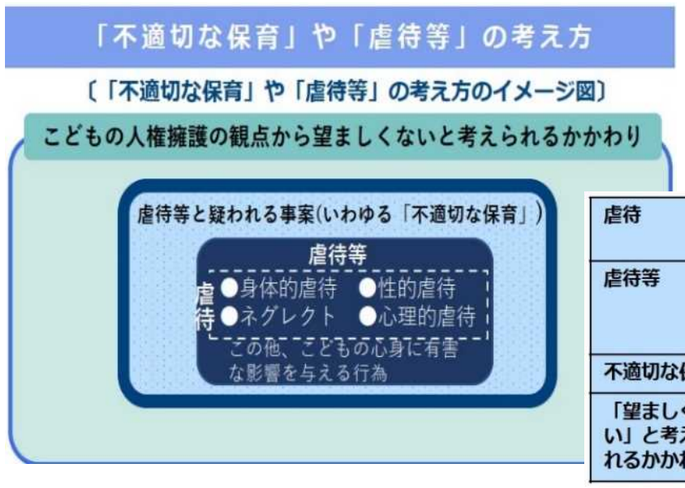
昨年来から日本各地の保育施設で起こった「不適切保育」の事案が、社会全体の大きな関心として取り上げられてきました。保育現場で働く者として、メディアの報道の内容や識者からの提言と、それに対する国や行政の対応の仕方に少し違和感があります。もちろん、一番悪いのは加害者となった保育士です。彼らの行った行為は到底許されるものではありません。しかし、誰の目から見ても不適切な行為が、なぜ行われたかという根本的な究明や、又、全国でも相次いで新たな報告が出てくる、その理由を私たちは考えていかなければなりません。

今年度から発足した子ども家庭庁より令和5年5月12日付で、「通達」「業務連絡」「ガイドライン」が出されました。その中には国の基準として明確に「虐待」と「不適切保育」が定義づけられました。そして、虐待や不適切保育を防ぐ手立てとしていくつかの事柄が示されています。私はその内容を読み進めていくうちに、国や行政に対する憤りを感じずにはいられませんでした。内容を簡単に紹介すると、行政の責任として「相談」「アドバイス」「定期的な巡回」「研修会への促し」となっています。識者等や保育現場サイドの提言には一切耳を貸さず、兎に角、同じような事案が起こらないように、現場で考えて、工夫して、何とかするように、何があったら行政に相談してくださいというスタンスでは、これからも不適切保育が無くなる道筋が見えてきません。特に保育所は、地方自治体として児童福祉法24条に定められた保育を提供する義務があります。現場任せにするのではなく、子どもたちを守るために積極的に公的機関が関与する必要があります。

現在、国が進めている「こどもまんなか社会」を実現するには、大人が考える子どもにとって良い環境ではなく、子ども自身が望む良い環境を構築していかなければなりません。そういった点で、今回の保育施設での不適切保育を子ども目線でより良くしていくためには、子ども自身にダイレクトに届く保育政策・施策の充実が欠かせません。1歳児クラスの子ども6人を保育士1人で保育するのは、世界的に見ても日本だけです。配置人数を見直し、子どもにかける目線を増やすことで守れるものが沢山あります。又、保育士は、厚生労働省のデータでは学校卒業後の5年目までに46％が退職します。夢をもって就職した先の保育現場が過酷すぎて、体や心を壊すことも珍しくありません。しっかりと休みを取れる環境の整備も必要です。様々な人生の転換期を経ても働き続けられる処遇の改善や社会的地位の向上も優秀な人材確保に繋がるでしょう。

結論として、現場では「配置人数の改善と処遇の充実」こそが、不適切保育を根絶する一番の近道と信じています。子どもに接する者が、余裕をもって、倫理観の伴った質の高い保育を提供するには、現在の制度の中での自助努力だけでは限界に来ています。

しっかりと今の時代に合った制度にすることが、不適切保育を無くし、保育施設が安心して子どもを預けられる場所になると考えています。



虐待	「身体的虐待」、「性的虐待」、「ネグレクト」、「心理的虐待」に該当する行為
虐待等	「虐待」に加えて「こどもの心身に有害な影響を与える行為」を含んだ行為 ※児童福祉施設設備運営基準第9条の2で禁止される「法第三十三条の十各号に掲げる行為その他当該児童の心身に有害な影響を与える行為」と同義。
不適切な保育	「虐待等」と疑われる事案※
「望ましくない」と考えられるかかわり	こどもの人権擁護の観点から「望ましくない」と考えられるかかわり

ふんわりやさしいオープンダイアローグまんが

『おもっていることがあっても、うまくいえない。』という、びーさんのお話を聞いて、しろさんとぺこさんでリフレクティングをしている続きです。

＜ No.5 Iメッセージ ＞

びーさん

ぺこさん

しろさん

リフレクティングで話をする人(聞き手)は、話し手の内容を聞いて、“自分”はどう思ったのか、“自分”はどんな経験があるのかを語るようにします。それを「Iメッセージ」と言います。意見を押し付けるのではなく、自分の経験として語ることで、距離を保って相手(話し手)にメッセージを届けることができるのです。

リレートーク

そらまめ作業所

毎回、各事務所で職員がどのように働いているかをお伝えします。
今回紹介するのは、平野区のそらまめ作業所で活躍する主任河原仁志さんを紹介したいと思います。

私はみんなから

と思われている様です。

9:00 朝礼

出欠や予定の確認や連絡事項を伝えます。

10:00 事務処理

職員体制の調整と確認や PT 活動のレジュメ等の作成 現場の見守りなど

12:00 食事介助

利用者の食事のサポート 自身の休憩もとります。

河原さんはこんな人

職員の面倒見が良い人で、仕事で困っていると声を掛けてアドバイスをしてくれます。時々、お茶目な一面を見せたりして楽しませてくれる存在です。

13:00 事務処理

個別支援計画、モニタリング、職員会議などの各種資料作成 現場の見守りなど

15:30～ 送迎

人手が足りない時は送迎にも出ます。

16:30～ 終礼

今日一日の出来事や明日の予定などを伝えます。

河原さんの想い

早いもので大学を卒業してから１２年目を迎え、現在主任という役職をいただいて日々業務にあたっています。福祉経験ゼロだった私がここに至るには多くの支えてくれる先輩後輩がいたことと、何より支えてくれる人達の期待に応えたいという原動力があったからなのだと思います。

よく言われることではありますが、福祉の現場に正解はありません、１０人職員がいれば１０個の意見があり、それを押し付け合えばそれが良いことでも現場は疲弊していきます。利用者も職員も関係なく互いが互いの想いを知り尊重できる本当の意味で活気ある現場作りに今後も尽力していきます。

祝 100号記念 ニュースの裏側

法人の機関紙として２００７年に発行されたつむぐニュースは、
今号をもってついに１００号を迎えました！！
数多くのニュースをお伝えしてきた機関紙『つむぐ』、
その裏側をみなさんにお伝えしたいと思います。

機関紙『つむぐ』編集者の**中谷路子理事。**
ここまでの道のりをインタビューし、ふり返っていただきました！

つむぐ発行のきっかけは？

２００１年に設立されたつむぎ福祉会が年々事業拡大されていく中で、私たちを支え応援してくださる人たち、つむぎ福祉会を知らない人たち、色々な人たちに「**法人のことをもっと伝えたい**」という気持ちが生まれ、２００７年、法人機関紙『つむぐ』を発行する決意をしました。また、作るからには福祉に関心のない人にも読んでもらえるような面白いニュースを作り、たくさんの情報を届けていこうと思っていました。

嬉しかったことやよかったことは？

ニュース制作にあたり、**色々な職員が参加**してくれたことが嬉しいです。個性あふれるニュースが発行できました。

また、**読者から**お手紙や声をかけて頂き、**反応が聞けた**ことも励みになっています。

大変だったことは？

記事の選定です！

独りよがりになっていないか、情勢や法人の考えがきちんと反映されているか常に考えていました。

たくさんの**想い**がつまった機関紙『つむぐ』

その制作風景は？

実は、ホッチキスとりかえ込みや郵送の準備をしてくれて作業所の利用者がページの折りいます！

つむぐ初号から2014年までかかわっていた**竹中京子**職員。
当時の思い出やつむぐ作成への想いをインタビューしました！

いろんな施設で取材や原稿を頂く中で印象的だったのが、パン工房の職員の方の「施設で障がいを持つ人たちが作っている商品だからと情けで買ってもらいたくない。本当に安全でおいしいパンだから買ってもらえるように頑張っている」という言葉です。**そんな想いが多くの人に伝わって実現するお手伝いの一役を担えればという気持ち**でした。

最初の頃はめまぐるしく、発送や作業日程が決まっているなか、印刷している途中でインクが切れて大ピンチ！…など、いろんなトラブルや失敗もありました。しかし担当していなければお会いできなかっただろう方々とお話できたり、保育園の運動会など法人内行事に直接伺ったことも楽しい思い出です。

つづきは別紙をご覧ください！

―2類から5類へ―
アフターコロナのいま
第2弾

前号から特集しております「アフターコロナのいま」の第２弾をお伝えします。
コロナ感染者が発生したそらまめ作業所・重症化リスクの高い利用者が多い生活介護カカラ
特に影響が大きかった生活支援センターコットン（グループホーム・ヘルパー）について報告します。

安・心・安全な共同生活

この3年間コロナでの制限を強いられ、ホームの利用者も窮屈な生活をしていました。

マスク着用の緩和などがされ世間はコロナ前のような姿に戻りつつありますが、高齢化・重症化リスクのある利用者がいるグループホームではまだまだ予断を許しません。手指消毒はもちろん、共有部分ではパーテーションの利用を引き続き継続しており、発熱者が出た時・コロナ陽性者が出た時には感染対策マニュアルを基に対応することで、ホームでの感染拡大を防いでいます。

利用者にはまだまだ窮屈な生活かもしれませんが、安心・安全を第一に共同生活を送ってもらえるよう支援していきます。

※リビングで利用者同士団欒している様子

利用者の気持ちと創意工夫を込めた想い

生活介護カカラには重度の利用者が多く、コロナ当初は「マスクをつける」ということを理解していただくことがとても難しかったです。利用者全員ではありませんが、今はマスクにも慣れて着用できる方も増えました。

そういう環境もあってか、複数事業所へ通所する方は、カカラへの通所を自粛される方も多くみられました。現在はコロナ前の通所状況に戻ってきてはいますが、数名の方はまだカカラ以外の一事業所のみの通所とされています。中でもサービス付き高齢者向け住宅で暮らす方はそちらのルールでカカラに通所できず、ようやく制限が無くなった時には本人の気持ちも変わり「行きたくない」と、退所された方もおられます。

5類になったとはいえ感染対策は必要ですので、カカラの特徴である『レクリエーション』をコロナ前と同じように実施することは難しい状況ですが、個人の特性に合わせた感染対策を講じたうえで今年6月に大人気企画であった「のど自慢大会」を約3年ぶりに復活することができ、皆さん自慢ののどを揮わせ大盛況なレクリエーションを行うことが出来ました。

これからも創意工夫を図りながら安全且つ楽しさや生きがいを感じて頂けるような支援をしていきたいと思います。

※三方向をアクリル板で囲んだ『ボックス席』を作り、
一人ずつマイクや席など全てアルコール消毒行います。

合理的配慮で選択の自由を

コロナで密を避けるための来場者数制限により、予約時に事前決済が必要な場面が増えました。

例えばヘルパーとの外出で海遊館へ行く場合、朝早く出発しても当日券を購入するため長蛇の列に並びます。そして入場する際は事前決済予約者が優先になるので、当日券購入者は混雑時数時間も待つことになり、外出時間の延長が難しい方などは入館を断念する場合があります。

事前決済が難しい環境の方もおられ、法人のクレジットカードを作る案も出ましたが、本人確認の必要など問題が多々あり、すぐには実行ができません。

政策の一環としてキャッシュレス化がある以上、今後様々なシーンで事前決済が増えていくと思います。しかし対応の難しい方が不便を強いられている現状を踏まえ、現在の様な事前決済予約方法だけではなく、電話など色々な予約方法の選択肢と、現金支払いも可能な予約システムにし、誰もが自由な選択と平等に参加できる合理的配慮の実施を望みます。

感染対策と自治会活動

今年の5月にコロナが2類から5類に移行された事を受け、少しずつ活動を再開していきましたが、その間にコロナ感染者が発生しました。

その教訓をもとに、活動再開の目途を立てることが難しかった自治会を3年ぶりに開催することが出来ました。

感染対策の為、一ヶ所に集まらない様に各フロアをZOOMで繋ぎ、リスクを少しでも下げる工夫をしながら、利用者全員が参加できる環境を準備しました。慣れないZOOMを利用しての自治会で大変でしたが、各フロアでの利用者同士が相談する様子も見ることができ、開催出来て良かったと感じました。

まだまだ安心できない状況ですが、可能な限り自治会の機会を設け「自分たちの事は自分たちで決める」という当たり前の事を続けていきたいと思います。

※ZOOMにて自治会活動している様子

コロナを経て変わる日本　私たちが考えること

大阪府の新型コロナウイルス感染症定点あたり患者報告数 25～36 週（6月19日～9月10日）は、5.16 人から 14.62 人に増加しています。身近なところで感染者が増えていると感じている方は多いと思います。つむぎ福祉会でも、5類に移行した後に、多くの感染者が出ております。保育園では、新型コロナだけでなく、様々な感染症にみまわれました。新型コロナがなくなったわけではありません。

しかし、いつまでもじっとしていることは出来ません。「できることは何か」「どうやったらできるか」知恵を絞りながら活動を、再開しています。また、キャッシュレス化やオンライン決済など、便利になったと感じる反面、利用できない人が増えていることも忘れてはいけないと思います。アフターコロナの世界が、すべての人に豊かな生活を保障する世界であることを願います。